

NPO

いわて未来ラボをNPO法人に認証

地域資源活用と人材育成に期待

団体の概要

■代表者 安田玲美

■会員数 10人

■事業内容

地域経済活性化、地域活力増進、人材育成、人材・企業紹介など地域情報発信、交流拡大等の事業を行い、郷土に誇りと夢を持つことができる地域づくりを目指すとともに、東日本大震災で被災した地域の子どもたちに夢と希望を与える取り組みを行い、復興に向けた活動を広く国内に発信する。本年度は高校での講演会の他、中高生を対象とした情報交換会などを実施予定。

安田代表は、「次の世代に

認証書交付後、山内隆文市長は「雇用の創出、地域資源の活用、地元企業の強化等について、各種制度の活用、官民連携を行うもまだまだ十分とは言えない状況。そのような中、子どもたちの将来に向けた支援・活動を開拓することに大いに期待します」と激励しました。

市では「北いわて未来ラボ（安田玲美代表）」を市内で13番目の特定非営利活動法人（NPO法人）に認定することを決定。6月4日、市役所で設立認証書交付式を行いました。同団体は東日本大震災後、被災地支援として子どもを対象としたイベントを開催した同級生の有志が中心となり設立。地域資源の有効活用や人材の育成を目指します。

今後、同団体は人材育成のため久慈地域の各高校で講演会を行う予定。自分たちの子どもたちが夢と希望をもつて生活していく地域を目指す同団体の活動に期待がかかります。



意欲を見せる安田代表（中央）と中平均事務局長（右）

地域スポーツポート

◆「北いわて未来ラボ」

NPO認証

地域の経済

活性化や人材育成を目指す久慈市の「北いわて未来ラボ」＝安田玲美（なるみ）理事長＝は4日、NPO法人に認証された。安田理事長（40）と中平均副理事長兼事務局長（40）が同市川崎町の市役所を訪れ、山内隆文市長から認証書を受け取った

II 写真。

同法人は1990年3月に久慈高を卒業した同級生10人で結成。震災後に野田村の避難所でイベントを開くなどして、地域の復興・活性化への思いを強くしたという。中国・北京を拠点にマ



一ケティング会社の経営などをする安田理事長らの人脈を生かし、企業の販路拡大や新規ビジネス支援、高校生らを対象にした講演会開催などを行なう。安田理事長は「30後年の未来を考え、みんなで一緒に進んでいきたい」と意気込む。

久慈の復興支援PR

NPO法人 東京で特産品販売

【東京支社】久慈市や木工雑貨など約80点のNPO法人北いわて未来ラボ（安田玲美理事長）は3日、東京・金町で開かれた被災地復興支援イベント「ライトフェスタ金町2012」に出展し、復興状況を伝えながら特産品を販売した。

メンバー5人が参加し、久慈地域の海産物化しないよう被災地が今も頑張っていることや今後も支援をお願いしたいということを伝えたい」と話す。



のだ塩入りオリジナルクッキーなどを販売し、復興状況を伝えるNPO法人北いわて未来ラボ

「苦労、楽しさに転換を」

1級建築士
本間さん

久慈工高で講演

テレビ番組などで活躍する1級建築士の本間貴史さん(47)＝仙台市＝は30日、野田村野田の久慈工高(岩井昭校長、生徒158人)で全校生徒を対象に講演し、夢に向かい継続して取り組む大切さをアドバイスした。

人材育成活動などに取り組むNPO法人北いわて未来ラボ(久慈市)主催。本間さんは中学時代の作文をきっかけに自分の将来を真剣に考え建築家を目指したことや、進学、就職、独立後の苦労、プロとしての仕事へのこだわりなどを語った。



「すてきな夢を見つけて、追い掛けてください」と呼び掛ける本間貴史さん

仕事で苦労しても「発想を転換して楽しいと思うことが大切」と指摘し、自身のこれまでについて、好きな

仕事に就くことにしてわったことなどを振り返った。

播磨涼汎君(3年)

は「努力が身になる」とや、将来を見据えて夢を持つ大切さを学んだ」と熱心に聴講していた。

津山竜治さんから目録を受ける小野寺智美さん（左）

若者目線 久慈の魅力発掘 NPO法人 イベント 高校生ら意見



解決策を考えた。最優秀者に選ばれた小野寺智美さん（久慈高1年）は自然や琥珀の良さに触れ、地域の魅力をツイッターやブログで発信することを提言。「街づくり研修費」として東京への交通費など10万円が送られ「久慈にない施設や建物を見て、地元の良さを感じたい」と意気込んだ。

久慈市のNPO法人北いわて未来ラボ（安田玲美理事長）は9日、市内のホテルで、同法人が進めるプロジェクト「言葉の力（コトチカ）」に関するイベントを開き高校生らが古里のこれからについてアイデアを出し合った。

イベントは参加者十数人にあえて地元の「悪口」を出してもらいい、地域の魅力発掘を狙った。出された意見を▽やる気を引き出すものが△地域の目玉になるものがない――に集約し、空間デザイナーの津山竜治さん（乃村工芸社）のアドバイスを受けながら、

地元の「悪口」書いたら10万円差し上げます。久慈市のNPO法人北いわて未来ラボ（安田玲美理事長）は、9月に開催するイベントの参加者に久慈地域の不満や嫌いなところを書いてもらい、愛のある悪口を書いた最優秀者一組に「街づくり研修費用」として10万円を贈呈する。

地域の「悪口」教えて

一組2人分の東京までの交通費と宿泊費と想定して支給し、地域活性化へのアイデアをリポートにまとめてもらう。

久慈で9日催し

9日はテーマパークや庭園などを手掛ける空間デザイナー津山竜治さん（東京・乃村工藝社）の講演会を開き、地元の高校生や住民が久慈地域のこれからを考える機会と

する。

同法人は久慈高を1990年3月に卒業した同級生たちで昨年6月に設立。中平均副理事長は「皆さんを感じる不満を直していくことが、地域を良くすることにつながるはずだ」と呼び掛ける。

イベントは9日午後1時半から久慈市川崎町の久慈グランドホテルで。参加無料。問い合わせは同法人（0194・52・8227）へ。

隠れた魅力再発見

これまでの作品紹介を
踏まえ、生徒たちにア
ドバイスを送る津山竜
治さん

一津山竜治さん(45) 11

介した。

山さんが手掛けた仕事の話やワークショップを通して、自分自身の今と将来を見つめた。

会場デザインに携わり、支柱や布などを再利用できるモニュメントを考案した経験から

なれる」と生徒たちに
アドバイスを送った。

どを書き込むシートを使い、現在と10年後を考えるワークショッピングを行った。山崎万里奈さんは「難しかつたけれど、将来の自分を見つめるために重要だと思った」と振り返った。



現在と将来の 自分見つめて

自分見つめて

久慈東高で講演会 NPO法人北いわて 未来ラボ（安田玲美理

事長)は4日、久慈市
門前の久慈東高(金沢
広利校長、生徒610
人)で、空間デザイナ

3年生209人が受講。津山さんは高校時代、デザイナーの故岡瑛子さんの作品集に出会って強烈な憧れを抱いた自身の体験を紹

なれる」と生徒たちにアドバイスを送った。

を行つた。山崎万里奈さんは「難しかつたけれど、将来の自分を見つめるために重要だと思つた」と振り返つた。

2012年(平成24年)9月30日(日曜日)



活躍に議論する異業種の参加者たち

若者に農漁業の技伝承を

海、川での体験の場欲しい

異業種間での情報交換や交流を盛んにして新製品開発や販路拡大を目指すと、洋野町は27日、町民文化会館で、異業種交流会を初めて開催した。町内の幅広い分野の業種から22人が参加し、自分の業種から考える町の将来像や、観光客へのPR方法などについて意見を交わした。(川守田将和)

町長が直接、町民から意見や提言などを聞く「ふれあい町長室」で、2月、町内の企業から異業種との意見交換の場がほしい」との声が上がったことを受け、開催した。

町内の農業、水産、飲食、情報サービス、旅館などの業種から参加

して、新製品開発や販路拡大を目指すと、洋野町は27日、町民文化会館で、異業種交流会を初めて開催した。町内の幅広い分野の業種から22人が参加し、自分の業種から考える町の将来像や、観光客へのPR方法などについて意見を交わした。(川守田将和)

町長が直接、町民から意見や提言などを聞く「ふれあい町長室」で、2月、町内の企業から異業種との意見交換の場がほしい」との声が上がったことを受け、開催した。

町内の農業、水産、飲食、情報サービス、旅館などの業種から参加

して、新製品開発や販路拡大を目指すと、洋野町は27日、町民文化会館で、異業種交流会を初めて開催した。町内の幅広い分野の業種から22人が参加し、自分の業種から考える町の将来像や、観光客へのPR方法などについて意見を交わした。(川守田将和)

町長が直接、町民から意見や提言などを聞く「ふれあい町長室」で、2月、町内の企業から異業種との意見交換の場がほしい」との声が上がったことを受け、開催した。

町内の農業、水産、飲食、情報サービス、旅館などの業種から参加

して、新製品開発や販路拡大を目指すと、洋野町は27日、町民文化会館で、異業種交流会を初めて開催した。町内の幅広い分野の業種から22人が参加し、自分の業種から考える町の将来像や、観光客へのPR方法などについて意見を交わした。(川守田将和)

町長が直接、町民から意見や提言などを聞く「ふれあい町長室」で、2月、町内の企業から異業種との意見交換の場がほしい」との声が上がったことを受け、開催した。

町内の農業、水産、飲食、情報サービス、旅館などの業種から参加

異業種間初の交流会

洋野活性化へ活発に議論

「まだについて考えた

性化を図る方針だ。

町は今後も交流会を開いて異業種間の交流を進め、地場産業の活性化を図る方針だ。

に、川釣り体験など海や川を使ったものがあつてもいい」など、活発な意見が出た。途中で席替えを行い、交流の機会を広げた。

郷土に誇りと夢を



山内隆文市長(右)から認定書を受ける安田玲美理事長。
左は中平均副理事長

久慈高OBがNPO法人設立

東日本大震災をきっかけとして岩手県立久慈高校の1989年度の卒業生10人が、地域活性化などに取り組むNPO法人「北いわて未来ラボ」(安田玲美理事長)を久慈市に設立し、4日、市から設立認定書の交付を受けた。市内でのNPO法人設立は13団体目。地域産業の振興などを事業方針に掲げ、2012年度は高校生対象の講演会を開くなど人材育成に力を入れる。

(水野大輔)

献したいとの思いが合致し、NPO法人の設立に至った。設立目的で「郷土に誇りと夢を持つことができる地域づくりに寄与する」としており、中国・北京を拠点にマーケティング会社を経営する安田理事長のノウハウなどを生かしながら、長期的視野に立った久慈地域の産業構造の転換などに取り組むという。

市役所での交付式には、安田理事長と中平均副理事長が出席。山内隆文市長から認定書を受けた安田理事長は「久慈地域の産業構造を改め、未活用資源を発掘し、30年先のグランドデザインを示してみたい」と意気込みを語った。

子どもたちとの 食材探しに活用

活動などを展開中。
事業の一環として、

久慈・北いわて

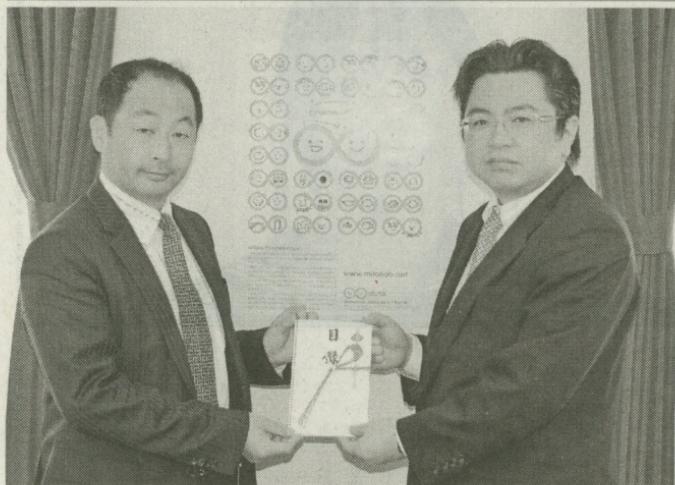
未来ラボ

地域コミュニティの一環として、
再生をはじめ、震災復興活動に取り組んでい

NTTドコモ（本社

東京都）は14日、東日本大震災の復興支援活動に取り組む久慈市のNPO法人「北いわて未来ラボ」（安田玲美理事長）に助成金を贈った。同法人が野田村の子どもたちと地元の食材探しを行い、新たなメニュー作りをする活動に活用される。

同社は2011年12月に「東北復興新生支援室」を設け、自治体などと連携しながらタブレット端末を活用したコミュニケーション支援



中平均副理事長（右）に助成金の
目録を手渡す佐藤一夫さん

佐藤さんは「街づくりに子どもたちが参加するのは素晴らしい取り組みで、しっかりと支援したい」と激励。中平副理事長は「子どもたちと一緒に地域資源を再発見し、復興の後押しにつなげたい」と抱負を述べた。

野田村での活動では子どもたちがドコモの携帯型端末を使い、情

ることを決めた。
この日は同室ゼネラルマネージャーの佐藤一夫さんらが市内の同法人事務所を訪ね、中平均副理事長に助成金の目録を贈った。

報収集する予定となつてある。（水野大輔）

震災復興に役立てて 助成金贈呈

NTTドコモ

編集部だより

●北いわて未来ラボが企画した「悪口」を書いて10万円」は、地域の課題をあえて「悪口」として捉えた斬新な企画。参加者は「人にやる気がない」「地域に目玉がない」という二つの課題について解決策を探りました。最優秀賞の選考は空間デザイナーの津山竜治さん(左)が担当。選考方法は「久慈だけに」と抽選(クジ)で決定。研修費用の10万円は市内の高校生が射とめました。ドラッグストア大手のマツモトキヨシ。創業者の松本清は松戸市長在任中、選挙の投票率低迷を払しょくするため、投票整理番号にクジをつけることを考案し実際実施したそうです。「毎日誰かに何かが当たるまち久慈」。ちょっと住んでみたいかも。(新)

地域の課題を 悪口で解決



北いわて未来ラボ（安田玲美理事長）主催の「悪口を書いて10万円」は3月9日、久慈グランドホテルで行われました。参加者は地域が抱える課題を「悪口」として提出し解決策を考えました。最も優れた発案者には小野寺智美さん（久慈高1年）が選ばれました。



洋野町東日本大震災復興講演会(同町主催)は3月10日、セシリアルホールで行われました。陸前高田市の味噌・醤油メーカー八木澤商店の河野和義会長が講演。「人と人とのつながり、奇跡の連続だった」と震災当時を振り返っていました。



教育、文芸
功績たたえる

久慈市における平成24年度の教育奨励賞と市民文芸賞の表彰式は2月21日、アンバーホールで行われました。市民文芸優秀賞に輝いた生田衣良さんは「受賞を励みに久慈市発展の力になれるように精進したい」と受賞の喜びを語っていました。



試食会で



来科学
場者
が不
笑顔議



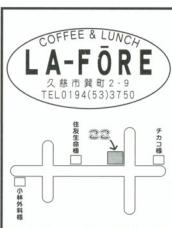
地域の課題を
悪口で解決

高校生ヤングボランティア団体「SEED」が企画運営する「かがくフェスタ2013」は3月2日、久慈市立中央公民館で開催されました。会場にはスライムやLEDのミニ発電など多彩な実験ブースが設置され、小学生を中心に不思議な工作の数々を楽しんでいました。

北いわて未来ラボ(安田玲美理事長)主催の「悪口を書いて10万円」は3月9日、久慈グランドホテルで行われました。参加者は地域が抱える課題を「悪口」として提出し解決策を考えました。最も優れた発案者には小野寺智美さん(久慈高1年)が選ばれました。



岩手・久慈
月26日、市か
れました。一汎
鐘を与えるもの
様子でした。会
けています。



地

ダナスエリアの旬情報 域 angle

DANASSエリアのイベントや
出来事を紹介します。



講演後はワークショップを実施

ライフデザイン見つめ直して

空間デザイナー津山さん講演

百貨店や、博覧会など多彩な空間デザインを手がけるデザイナーの津山竜治さんを招いた講演会とワークショップは2月4日、久慈東高校で行われました。同校3年生を対象に、NPO法人北いわて未来ラボ(安田玲美理事長)が主催。津山さんは「今日の催しを、ライフデザインについて考えるきっかけにしてほしい」と語っていました。



震災からの復興をアピールしようと、久慈地方の名産品を販売するスタッフ

久慈・NPO法人「北いわて未来ラボ」

名産品を販売

復興ア。ビール

首都圏だより

久慈市NPO
法人「北いわて未
来ラボ」(安田玲
理事長)

JR金町駅前の複合
商業施設「ヴィナシス」
金町の商店会が、岩
手県や青森県などの団
体に参加を呼び掛けた。
実現にこぎ着けた。

は3日、東京・金町の商店街
広場で、久慈地方の名産品の販売会を開
催し、東日本大震災からの復興を都民ら
にアピールした。

(田中秀知)

JR金町駅前の複合
商業施設「ヴィナシス」
金町の商店会が、岩
手県や青森県などの団
体に参加を呼び掛けた。
実現にこぎ着けた。同
法人スタッフの他、同
商店会のメンバーも販
売に協力した。

会場では、野田村の
「のだ塙」を使ったオ
リジナルクッキーや、
津波で流された沿岸部
のクロマツを使った木
製品などを販売した。

事長は「震災を風化さ
せたくない」という願い
とともに、少しすつ元

氣を取り戻してきた久

慈地方をPRしたい。

地元の産業活性化にも

つながってほしい」と
期待を込めた。

岩手県北

販売店

■洋野町

種市

0194(65)2221

八木

0194(67)2241

中野

0194(67)2126

大野

0194(77)2546

■久慈市

久慈

0194(52)3437

夏井

0194(53)2895

■野田村

野田

0194(78)2121

■二戸市

金田一

0195(27)3035

福岡

0195(23)8253

净法寺

0195(38)3021

■軽米町

軽米

0195(46)2207

■一戸町

一戸

0195(23)8253

■九戸村

九戸

0195(42)3752

＜購読申し込み＞

本社販売部

0120-365-339

* 情報は
こちらまで
二戸支局 0195(23)2424
本社 0178(44)5111
盛岡支局 019(653)5303

青森支社 017(77)252050, 656566
久慈支局 0194(53)3456

3年半の任期を終えた峯田幹大弁護士(右)と、新たに所長を務める齊藤拓弁護士

た。 齊藤弁護士は東京都多摩市出身。東京大法学部を卒業後、司法試験に合格し、都内の法

院で、変な時期での交代は残念だが、復興を外から見守りたい」と感謝した。

「踏み出せば景色変わる」

久慈 須谷さん(日本紛争予防センター)講演

中東やアフリカなどの中東やアフリカなどの紛争地で平和構築事業に取り組む認定NPO法人日本紛争予防センター(東京都)事務局長の瀬谷ルミ子さん(35)は14日、久慈市畠田の久慈高(加藤春男校長、生徒538人)で全校生徒を対象に講演した。

中川誠君(3年)は



活動のきっかけとなった新聞の写真を紹介する瀬谷ルミ子さん

6大会の活躍を報告

相撲部 大槌中 5人が教育長訪問

大槌町小鎌の仮設校

がら頑張ってほしい」と激励し、部員と握手を交わした。

同選手権は8月に東京・両国国技館で開

「紛争解決に日本が大きな役割を果たしていることを誇らしく思った」と関心を高めた。

講演会は、同校の卒

業生らで6月に結成したNPO法人北いわて未来ラボ(安田玲美理事長)が活動第1弾として企画した。

大船渡市大船渡の仮設商店街「おおとな夢商店街」の入店舗で構成する同商

街協同組合(伊東修事長)

は16日、同商店街内で「踊る!さくら

夢祭」を開く。

地元の鮮魚店が協

し、焼きサンマ50

本、サンマのつみれ

500食分を先着で

料提供。数量限定で

サンマの販売や直送の受け付けも予定

る。

午前11時と午後

時からは、震災後

市の支援イベント、参加する成蹊大、

習院大などのOG

こせた。震災があり大

祝い状と記念品など

た。